

おばあちゃんのつばき

白山台小学校 二年 佐々木 萌結

毎年、春になると、まっかなつばきの花がさきます。これは、五戸のおばあちゃんが、わたしのおうちにうえたつばきです。もともとこの花は、五戸のおばあちゃんの家で元気にさいていたつばきです。わたしが生まれておばあちゃんといっしょにすむときまったとき、おばあちゃんが五戸の家からもつてきてうえたのだそうです。

今年の春も、いっせいに花がさきました。

「あつ。つばきさいたよ。」

わたしが一ばん先に見つけました。生活かべんきようで、春さがしをしていたので、わたしは、春の花を見つけるのがとくいです。チューリップ、たんぽぽ、スミレなどです。

大きなつばきの花は、やがてかれて、みどり色のスーパールぐらいの大きさのみができます。それから、すこしすると、そのみはちや色くなります。わたしが小さいころは、そのみをたくさんあつめて、ころがしてあそんでいたそうです。

つばきのみは、とてもかたいのですが、しばらくすると、じぶんの力でぽかっとわれて

たねをおとします。とてもかたくて、ちや色いお月さまみたいなたねです。

「つばきあぶらをつくってみないか。」

とおとうさんが言いました。

「やる。やる。」

わたしは、すぐにどんなふうにつくるのかをしらべました。たいへんそうです。

まずは、つばきのたねをかわかします。

つぎに、かなづちでたたいたり、ペンチで

つぶしたりしました。

それから、すりばちですります。力がいるので、おとうさんとこうたいですりました。

そのあと、すったつばきをガーゼでつつんで、むしきで十五ふんむします。

いよいよ、つばきあぶらをしばらくときがきました。すったたねをガーゼでつつんでから、わりばしにはさみます。それから、わりばしをまわすと、あぶらがでてきました。黄色いきれいなあぶらです。とちゅうから、おかあさんも手つだってくれました。しばらくあぶらが手についたので、ぬってみると、いかにんじにしつとりしました。

とつてもたいへんだったけれど、びんに入れたら少しでした。これからおかあさんといっしょに、たいせつにつかうときめまし

た。

つばきのおばあちゃんは、三年前に天ごくにいってしまいました。おばあちゃんにも、つばきあぶらをぬってあげたかったなあと、思いました。おばあちゃんは、おしゃべりが大すきで、いつもわらっていました。だからつばきがさくと、花がおしゃべりしているような気がします。

おばあちゃんのつばきが、わたしは大すきです。